



韓国の旧正月と正月症候群

韓国では、中国と同様に旧暦による旧正月を過ごすことはご存知でしょうか。旧暦によるお盆と旧正月は、韓国の二大民族的祝祭日であります。

今年の旧正月は、2月19日でしたので、2月18日（木）から20日（金）までは祝日でした。となると、今年は、休みが18日（木）から22日（日）までの五日間になります。まず、伝統的な立場からの旧正月を紹介します。

正月朝には、親の家に息子と孫が集まり、ご先祖様を祭るために、伝統料理を並べて、お辞儀をする「チャレ」という儀式を行います。

朝ごはんには、長生きを願い、米で細長く作ったガレドックという餅が入っている「トクグック」スープを食べます（年をとるためにはトクグックを食べないといけないと言われていきますので、年を聞くとき、「トクグックをいくつ食べましたか」という表現も使われます）。

朝ごはんを食べた後は、孫と子供達は、祖父・親にお辞儀（セベと言います）をし、感謝の気持ちを表したら、お返しにお年玉をもらいます。そして、お互いに幸せを祈る言葉（徳談：ドクダム）を交します。

その後は、皆でおしゃべりしたり、数々の美味しい料理を食べたり、久しぶり集まった親戚と伝統的なゲームで盛り上がりながら、一日中楽しめます。人々は、この日はハンボクという伝統衣装を着ます。テレビに映る芸能人もアナウンサーも鮮やかな、美しいハンボクを着ています。

ところで、現代の正月には何が起きて、



人々は何を感じるでしょうか。

正月は楽しいだけではありません。実際に「正月ストレス・正月症候群」という言葉があります。これから正月ストレスを紹介しましょう。

一番のストレスとなるのは、人との比較のストレスです。親戚同士での比較、結婚や就職についての質問から来るストレスです。

サラリーマンを対象にした調査によると、ストレスが溜まる質問として、一位に「結婚はいつする予定ですか。恋人はいますか。」、第2位には、「お金はたくさん貯めたか。」が挙げられました。

日本人としては、そんなこと聞くのとびっくりするでしょうけど、聞きますし、聞かれます。結婚が遅かった私としては、親戚からあれこれ言われる結婚の話は相当なストレスでしたし、正月に祖父の家に行きたくなかったです。

二番目のストレスは、お金であるそうです。ある調査では、不況のせいか、親へのプレゼント代、小遣い、お年玉のためのお金が、正月ストレスの一位となったそうです。

韓国は見栄を張る文化なので、経済的に負担になるにも関わらず、安いものを用意する、又はお年玉（又は小遣い）を少なめにすることは、なかなか難しいので、日本人が思うより、ストレスになると思います。

三番目のストレスは、家事に追われる嫁が感じるストレスです。これが結構深刻で、社会的な問題となっています。

多量のお祝いの料理の準備、後片付け、義理の母の小言などで、消化不良、頭痛を感じ、ほとんどの主婦が、いわゆる、正月主婦症候群にかかるそうです。酷い場合は、精神科の助けが必要となる、鬱病となります。ある調査によると、正月には女性だけが家事をしたと応答したのが53.4パーセント、その中で、嫁だけが家事をしたと応答したのは62パーセントにもなるということです。普段は家で家事をする夫でも、自分の親がいる正月は、手伝いにくい雰囲気になるようです。

まとめますと、韓国の正月は、伝統的な家父長制的な価値観と現代の男女平等の価値観が衝突する場です。普段は男女平等である核家族で過ごす主婦が、正月には家父長制的な価値観が支配する大家族体制を経験し、ストレスがたまるようになります。

もちろん、夫のストレスも無視できません。里帰りのための長時間の運転や移動に耐え、ストレスが溜まっている妻の機嫌を気にしないといけないからです。



親戚、家族みんなが集まる機会には、皆で楽しく過ごしたいですね。韓国では、集まった皆が楽しめる新しい正月の過ごし方が提案されつつあるそうです。



筆者紹介

朴沼泳（ばく・そよん）

2001年38回韓国弁理士試験合格、2013年日本弁理士試験合格。現在は新樹グローバル・アイピー特許業務法人の顧問を務める。ソウル生まれ、2003年から現在まで日本在住。

韓国の中央大学校の政治外交学科および大阪工業大学の電子情報通信学科を卒業。趣味はダンス、好きな食べ物はチラシ寿司、キムチチゲ。好きな言葉は「修身齐家治国平天下」。